

&lt;学部・学科・専攻名&gt;

学部名	人間関係学部
学科名	人間福祉学科
専攻名	-

(平成30年度以降の入学生)

&lt;ディプロマ・ポリシー (DP) &gt;

DP 1	社会に貢献できる福祉マインドを身につけている。
DP 2	さまざまな生活課題を抱えた人々と共生できる知識、技能を身につけている。
DP 3	生活を多面的に観察し、問題を捉える力を身につけている。
DP 4	多様な文化や背景を理解し、受け入れる能力を身につけている。
DP 5	相手の立場を尊重し、他者と協力して人間関係を構築することができる。
DP 6	社会や福祉の問題解決に向けて、適切な実践方法を選択・計画し、行動することができる。
DP 7	他者の声に耳を傾け受容することができる。
DP 8	問題解決に向け、チームワークを活かすことができる。

科目コード	科目名	単位	配当 年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ○：特に関係する ○：関係する									
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	DP 8		
142018001	精神疾患とその治療 I	2	2年	尾久 裕紀	社会福祉士や精神保健福祉士を目指す者はもとより、将来福祉に携わる者にとって、精神疾患について学ぶことは有意義な事と思われます。精神医学 I では、精神医学概論、精神障害の理解、精神疾患の症状と診断、代表的な精神疾患について学びます。	精神医学の基本的なアプローチ、主な精神疾患の概略を理解し、説明できる。		○	○	○		○				
142018003	ソーシャルワーク論 I - A	2	1年	山本 真知子	○授業の概要とねらい現代社会にはさまざまな社会問題があり、その中で社会を生き、日々の生活を送る私たちにとって、「相談をする」こと、「相談を受ける」とはどのようなことを考えていきます。問題や課題を持つ当事者の立場を尊重し、問題の軽減化や解決をめざそうとする「相談援助（ソーシャルワーク）」の意義や目的を学びます。内容としては、講義を中心としながら、視覚教材や事例を取り上げていきます。	○到達目標・ソーシャルワークの価値や倫理、理念について学ぶ。・現実の問題と刷り合わせ、社会福祉的視点から分析できるようにする。・問題をもつ当事者への想いを大切にし、相談援助の理念を実践する力を習得する。・社会福祉士、精神保健福祉士の役割について学ぶ。	○	○	○	○	○			○		
142018016	社会福祉学基礎セミナー I	2	1年	松山 博光	この基礎演習は、社会福祉学の入門編です。これからソーシャルワーカーを目指す学生に対し、基本的な専門知識や技術を理解しながら、実践科学としての初歩的なものの見方や考え、活動などができるように学習します。	車いす体験、視覚障害者体験などを通して、社会福祉の基本的な用語の理解と社会福祉の対象とする人々の理解を深めることを目標とする。	○	○	○	○	○			○		
142018016	社会福祉学基礎セミナー I	2	1年	上野 優子	これから社会福祉を学ぶにあたり、「社会福祉とは何か」について学ぶことにある。社会あるいは福祉という言葉一つをあげても、それにまつわる事からは奥が深いものである。学習するにあたり、その目的、理念、視点、あるいは権利といった内容に、学生の一人ひとりが向き合っ考えながら福祉のスペシャリストへと進んで行ってほしいと思う。子供から高齢者を対象に、時には、スポーツやレクリエーションをテーマに様々な意見交換や討論を進める予定である。それらを広く福祉の場面に近づけ、各々の学生の関心事について検討を進めていきたい。なお、授業の前半は所々で、全体での合同授業となることもある。福祉における全体的な流れが理解できる。	車いす体験、視覚障害者体験などを通して、社会福祉の基本的な用語の理解と社会福祉で対象とする人々の理解を深めることを目標とする。	○	○	○	○	○			○		
142018016	社会福祉学基礎セミナー I	2	1年	山本 真知子	○授業のねらいこのセミナーでは、社会福祉とは何か？ということを知ります。大学で学ぶという事は、授業に参加する事以外に友人や教員と討論したり、図書館を利用して自主的に勉強したり、実際に現場に向いて自分の目で見たこと考えたことを発表するなどいくつかの方法があります。このセミナーを通して、社会福祉の基礎を学ぶ事とともに、大学生としての意識を持ち、「勉強する」だけでなく「学ぶ」目的や意義を考えて取り組んでください。	○到達目標・大学で学ぶ意義、目的を知る。・社会福祉の基礎を知る。・実際に体験し、自分の目で現場を見て、まとめ、発表することができる。・図書館の基本的な使い方がわかるようになる。	○	○	○	○	○			○		
142018016	社会福祉学基礎セミナー I	2	1年	丹野 眞紀子	これから社会福祉を学ぶにあたり「社会福祉とは何か」に焦点を当て、その目的、理念、視点、権利など、学生一人ひとりが考えつつ検討を加えられる演習にする予定である。特に、入学に当たって抱えていた社会福祉に対する興味関心をより明確にしていくことを目標とする。また、大学での学習を深める意味でも、「読む・書く・話す・聞く・理解する」などの基本的な学力を養うため、文献講読、レジメの作成、テーマを持った発表、これに関する討議というプログラムを進める予定である。	車いす体験、視覚障害者体験などを通して、社会福祉の基本的な用語の理解と社会福祉で対象とする人々の理解を深めることを目標とする。	○	○	○	○	○			○		
142018016	社会福祉学基礎セミナー I	2	1年	星野 尚美	社会福祉学の基礎を学ぶための基礎的知識の確認と習得を、少人数制で行ないます。	社会福祉学の基礎的知識の習得をめざします。	○	○	○	○	○			○		
142018016	社会福祉学基礎セミナー I	2	1年	尾久 裕紀	将来社会福祉関係の職種を希望している人から、漠然と社会福祉を学びたいと考えている方まで様々な方だと思います。このセミナーでは、大学での学びの基礎、社会福祉とは何か、について学びます。	このセミナーを通して、社会福祉の基礎を身につけ、大学生としての意識を持ち、学ぶ姿勢を身につけること。	○	○	○	○	○			○		
142018017	社会福祉学基礎セミナー II	2	1年	井上 修一	・さまざまな書籍を取り上げながら、メンバーの興味を明確にする。・「調べる」「まとめる」「報告する」力の習得をめざす。・導入教育と大学での学びの基礎的スキルを身につける。	・「調べる」「まとめる」「報告する」力をつける。・導入教育と大学での学びの基礎的スキルを身につける。					○		○	○	○	

<学部・学科・専攻名>

学部名	人間関係学部
学科名	人間福祉学科
専攻名	-

(平成30年度以降の入学生)

<ディプロマ・ポリシー (DP) >

DP1	社会に貢献できる福祉マインドを身につけている。
DP2	さまざまな生活課題を抱えた人々と共生できる知識、技能を身につけている。
DP3	生活を多面的に観察し、問題を捉える力を身につけている。
DP4	多様な文化や背景を理解し、受け入れる能力を身につけている。
DP5	相手の立場を尊重し、他者と協力して人間関係を構築することができる。
DP6	社会や福祉の問題解決に向けて、適切な実践方法を選択・計画し、行動することができる。
DP7	他者の声に耳を傾け受容することができる。
DP8	問題解決に向け、チームワークを活かすことができる。

各DPと授業の到達目標との関係  
○：特に関係する ○：関係する

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
							1	2	3	4	5	6	7	8
142018017	社会福祉学基礎セミナーⅡ	2	1年	蔵野 ともみ	本セミナーでは、社会福祉専門職の基礎としての知識、倫理を身につけると共に、各自が社会福祉の研究課題を持ちそれに取り組む方法を学ぶ。自分の関心を持つことについて、その基本的な文献をどの様に探し、どの様に読めば良いのか、研究方法の導入部分を学習する。また、グループで見いだしたテーマに沿ってまとめ、発表することを本セミナーの課題とする。さらに、個人の研究テーマを見出し、今後取り組む方法について考える。	本セミナーは次の3点を目的とする。(1)社会福祉研究とは何かを理解する。(2)社会福祉援助実践現場の実際について理解する。(3)社会福祉援助の対象について理解し、その個別の対応方法について知る。								
142018017	社会福祉学基礎セミナーⅡ	2	1年	田中 康雄	各自の関心を明確にし、社会福祉を学ぶ意味を見出す。自主的な学習態度を強化し、卒業研究や実習を視野に入れ演習を行い、「調査」「まとめ」「報告」を中心に、レポート作成のためのスキルを身につける。実習や就職活動、卒業研究に役立つよう、コミュニケーション能力を高める。	卒業研究における研究活動の基本となる学習スキルを修得する。自分で調べたことを他者にわかりやすく発表することでプレゼンテーション能力を高める。実習、就職活動、発表などに必要なコミュニケーションスキルを修得する。								
142018017	社会福祉学基礎セミナーⅡ	2	1年	関田 誠	この授業は、身近にある問題を探し、その解決策を探るといって「問題-解決」形式で行っていきます。読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練を行いながら、実際に研究するとは、どういうことかを見ていきます。それぞれ最後には各自の研究テーマに沿ったプレゼンテーションをしてもらいます。また授業を通して次の力の養われます。1、問題を発見する力 2、問題を理解し、解決策を考える力 3、解決策の妥当性を判断する力 4、解決策(自分の意見)をまとめる力 5、自分の意見を他人に伝える(話す・書く)力 授業は、グループワークが中心になり、自分の意見をもとめていきます。積極的な授業への参加が要求されます。	・ある問題に対して、解決策の探し方が分かり、実際にできる。・その内容を整理整頓の仕方が分かり、実際にできる。・その内容のレポートの書き方や口頭発表の仕方が分かり、実際にできる。								
142018017	社会福祉学基礎セミナーⅡ	2	1年	相川 富哉	福祉現場では、質の高いサービスを提供するために多職種連携が不可欠であり、カンファレンスなどでそれぞれの専門職が自分の意見を述べるのが求められます。また、介護保険制度が始まってから、利用者や家族からケース記録の公開を求められることや、ケアプランを利用者や家族に書面で提示するなど、事実を的確に捉えて文章にする能力が求められています。このような現状を踏まえ、この授業では考える力や書く力、言葉で表現する力、相手の話を聴く姿勢を身につけていきます。	この授業では考える力や書く力、言葉で表現する力、相手の話を聴く姿勢を身につけていきます。								
142018017	社会福祉学基礎セミナーⅡ	2	1年	嶋貴 真人	本セミナーでは、福祉専門科目の学習を進めていくにあたって、その土台ともなりうる「生命倫理」、「自己決定」といった哲学的な課題についてじっくりと考えていきます。これらの問題は、どれも容易に結論を得ることができない非常に深遠なテーマであると同時に、年齢や経験に関係なく、誰でもそれぞれの人生の段階ごとに、それなりの意見や考えをもつことができる問題でもあります。そこで、この授業の中では、まず教師がこれらの問題に関する新聞記事などから引用した事例を受講生に対して提示し、次に受講生が自分の考えを述べ、さらに他人の異なる意見を聞きながら自分の考えを再構成するというステップを、毎回繰り返していきます。これとあわせて、この授業では意見が対立するテーマについて二手に分かれて論争する訓練(ディベート)、短時間で文章を要約する訓練、大学の授業をノートテイクするための練習なども取り入れていきます。	この授業を聞くことによって、自分の考えを言葉や文章で明確に表現する力を養うことができます。また、日本語の表現上の留意点など、2年次以降の学習に必要な実践的な力も身につけることができます。								
142018023	人体の構造と機能及び疾病	2	1・2年	尾久 裕紀	将来、福祉職に従事する人は、基本的な人間の身体の構造と働きについて理解する必要があります。また成長、発達、老化によって生じる身体機能の変化やよく見られる疾患について理解することで適切な対応ができます。	人体の構造と働き、疾病、障害、さらにリハビリテーション、健康の考え方について基本的な知識を身につける。								
142018024	心理学理論と心理的支援	2	1年	千田 若菜	対人援助を基本とする福祉専門職にとって、人を理解することは欠かせません。その中で、目に見えない「心」の理解を求められたとき、どのように対応していけばよいでしょうか。また関係職種として心理専門職との連携も、求められてくるでしょう。この授業では、そのような将来の仕事に向けた基礎学習に加え、心理学が日常生活や自分自身に関する理解にも役立つことを学んでもらえればと思っています。	・「人」と自分自身を理解する一助としての、心理学を知り、日常生活および対人援助に当てはめて考える。・「脳と心」「日常生活と心の健康」「発達と心理」との関係について理解し、関連する障害について知る。・アセスメントの意義について知る。								

&lt;学部・学科・専攻名&gt;

学部名	人間関係学部
学科名	人間福祉学科
専攻名	-

(平成30年度以降の入学生)

&lt;ディプロマ・ポリシー (DP)&gt;

DP1	社会に貢献できる福祉マインドを身につけている。
DP2	さまざまな生活課題を抱えた人々と共生できる知識、技能を身につけている。
DP3	生活を多面的に観察し、問題を捉える力を身につけている。
DP4	多様な文化や背景を理解し、受け入れる能力を身につけている。
DP5	相手の立場を尊重し、他者と協力して人間関係を構築することができる。
DP6	社会や福祉の問題解決に向けて、適切な実践方法を選択・計画し、行動することができる。
DP7	他者の声に耳を傾け受容することができる。
DP8	問題解決に向け、チームワークを活かすことができる。

各DPと授業の到達目標との関係  
◎：特に関係する ○：関係する

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係									
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
142018025	社会理論と社会システム	2	1年	渡辺 芳	現代社会における社会変動について学ぶことを目的とする。社会変動によって生まれたさまざまな社会問題を理解するために、基盤となる知識を深めていくことにしたい。	(1) 社会変動について、わかりやすく説明することができる。(2) 社会福祉制度の必要性について、社会変動に関連付けながら説明することができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
142018090	介護実習入門	1	2年	佐藤 富士子、 金 美辰	本講は老人保健施設での現場実習である。現場実習は単なる体験活動の場ではない。学内で学習した専門科目およびその他の教育科目を基盤に、施設に入所している利用者に対してその人らしい生活習慣をできる限り尊重して自立支援できることがねらいである。	本実習では老人および老人保健施設の特徴をふまえ、施設利用者への自立支援の実態を体験し、さらに施設で働く職種や役割・連携を把握し、学内では身につけることの困難な利用者との人間関係の成立や利用者の理解を深め、日常生活の基本的な生活支援が実践できることを主な目標としている。					○	◎				
142018098	福祉レクリエーション論	2	1・2・ 3・4年	片山 昭義	社会福祉や医療・保健領域で広く展開されている福祉レクリエーションについての基本的理解や、福祉レクリエーション援助の考え方や内容について学習する。特に“楽しさ”をベースとする援助の特性を理解し、その上で援助者の役割や対象者との信頼関係の構築に必要な考え方を学習する。なおこの授業は、公益財団法人日本レクリエーション協会公認「福祉レクリエーション・ワーカー」資格取得のための指定授業科目である。	福祉レクリエーションの社会的意義が理解でき、自信を持って福祉現場での実践に臨むことができる。	◎					○	○	○	○	
142018109	ケア・マネジメント論	2	1・2・ 3・4年	葛野 章	ケアマネジメントは、複雑で多様なニーズを持つクライアントに対して、適時に適切なサービスを結び付け、これらのサービスを継続的かつ包括的に利用してゆけるよう調整を行ってゆくための方法論です。1950年代から60年代にかけて、アメリカでの脱施設化運動に伴う精神障害者の地域生活継続のためのサービス調整をその起源としています。高齢者の分野では、1970年代にアメリカやイギリスで効率的なサービス提供の方法として実験、注目されはじめ発展し、わが国では1980年代半ばにその考え方の導入が図られました。そして現在では、介護保険制度が、高齢者の生活を支える諸サービスを提供してゆくための根幹となる方法論として採用、定着されるに至っています。授業では、まずケアマネジメントの「定義、発展過程、諸モデル、技法」といった理論を一緒におさえます。次にわが国の「制度としてのケアマネジメント」を学ぶため高齢者の分野に着目し、介護保険制度に絡めながらケアマネジメントを概説します。	ソーシャルワーク技法としてのケアマネジメントについて、多角的に説明ができる程度の知識の習得を旨とします。	○	◎	○	○		○				